

鴨島町制施行50周年 記念誌

KAMOJIMA

菊花咲き、江川流れて……。

鴨島町

未来へと続く50年。

吉野川の川幅が河口へ向けて次第に広がり始めるこの場所に初めて集落ができたのは、実に4,000年前のことと言われます。それからというもの、たびたびの洪水とたたかいながら、この地に住んだ人たちは時代時代の産業を興し、文化を育み、そして日々の暮らしを営んできました。やがて昭和29年に、現在の鴨島町が誕生。その日から今に至る50年の間にも、さまざまな出来事がありました。過去を慈しみ、今日を大切に、そして明日へと希望を抱く。そんな私たちの生活もやがて遙かな未来へと続く新しい歴史のページになってゆくのでしょう。この美しい空と緑の山なみ、そして雄大な川の流れに見守られながら。



CONTENTS [目次]

かもじま四季風情……………2

鴨島町のあゆみ I [明治22年～昭和28年]……………10

KAMOJIMA's Scenery

菊人形……………16

鴨島鳳翔太鼓……………20

五九郎まつり……………22

藤井寺……………24

鴨島のまつり……………26

鴨島町のあゆみ II [昭和29年～昭和46年]……………28

私の鴨島 ～小・中学生がつづるふるさとへの想い～……………38

KAMOJIMA's Scenery

江川湧水源……………42

森藤 壇の大クス……………44

鴨島町のあゆみ III [昭和47年～昭和63年]……………46

KAMOJIMA's Scenery

コミュニティ活動……………60

イベント……………62

鴨島駅前、今昔……………64

鴨島町のあゆみ IV [平成元年～平成16年]……………66

笑顔の未来……………82

鴨島町から吉野川市へ……………84

春のどやかに、水辺の花見。

野にあれ山にあれ、桜はどこで眺めても美しいが、
水辺で薄紅色の花雲を広げる桜には、また格別の趣がある。
見上げれば青空を透かす枝、水面をのぞけば揺れる花影。
華やかさと清々しさが宿るその姿は、まさに日本の春そのものだ。
元来、鴨島の桜は水辺と縁が深い。今や伝説となった
水際公園の先駆け、名勝・江川遊園地には、
旧堤上に見事な桜が植えられ、花見客で大いに賑わったという。
その面影を受け継ぐ鴨島公園にも水辺の桜が咲き誇る。
時代が移り変わっても、花を愛でる人の心は変わらない。





夏が沁みる、まばゆい青。

鮎解禁。その日を夏の始まりと定める釣り人は少なくない。

清流・吉野川沿いには地元自慢のポイントが数々あるが、

鴨島町内流域にも、柿原堰(かきはらせき)という名高い釣り場が存在する。

真っ青な空と川、そして緑が輝く最高の舞台へ。

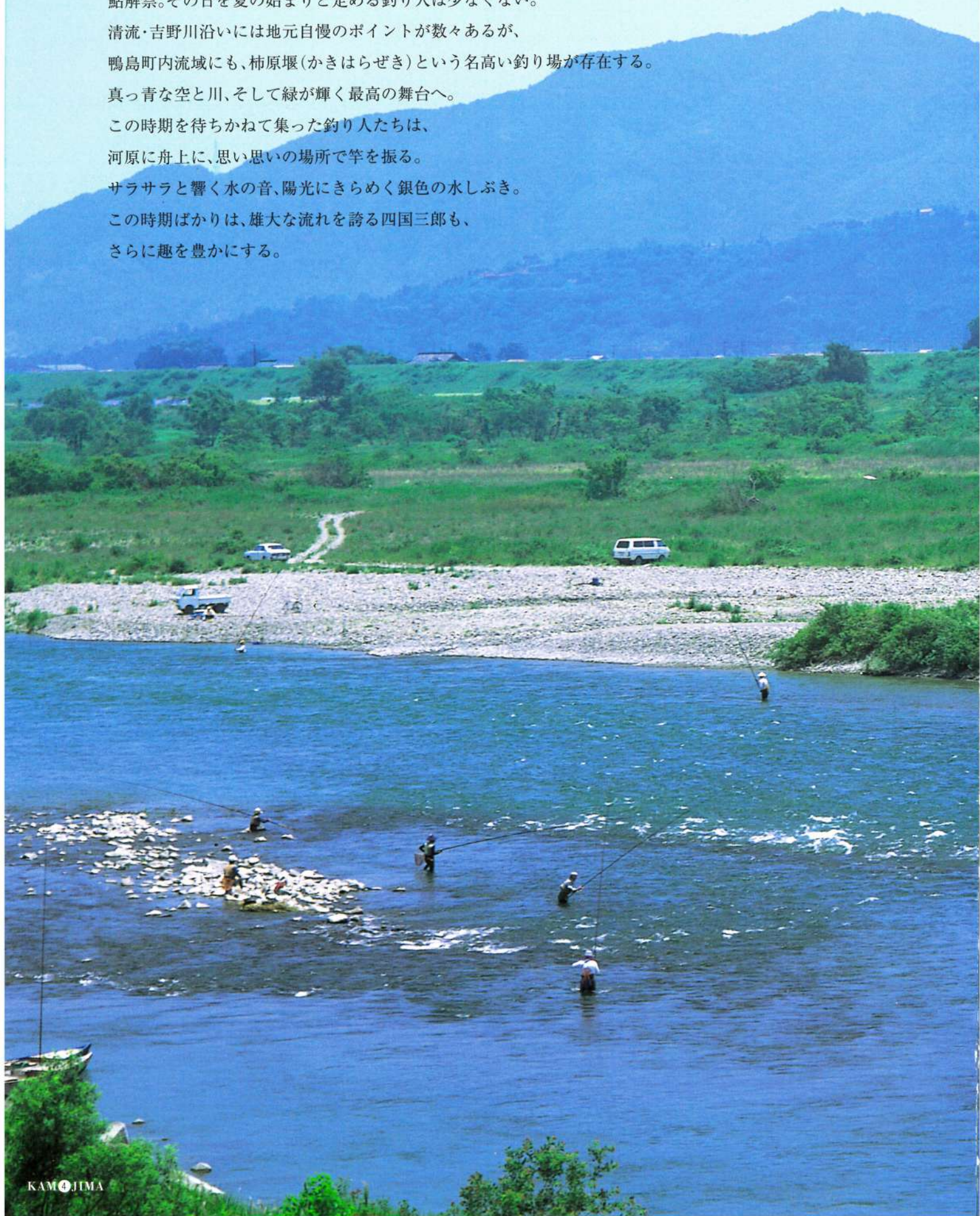
この時期を待ちかねて集った釣り人たちは、

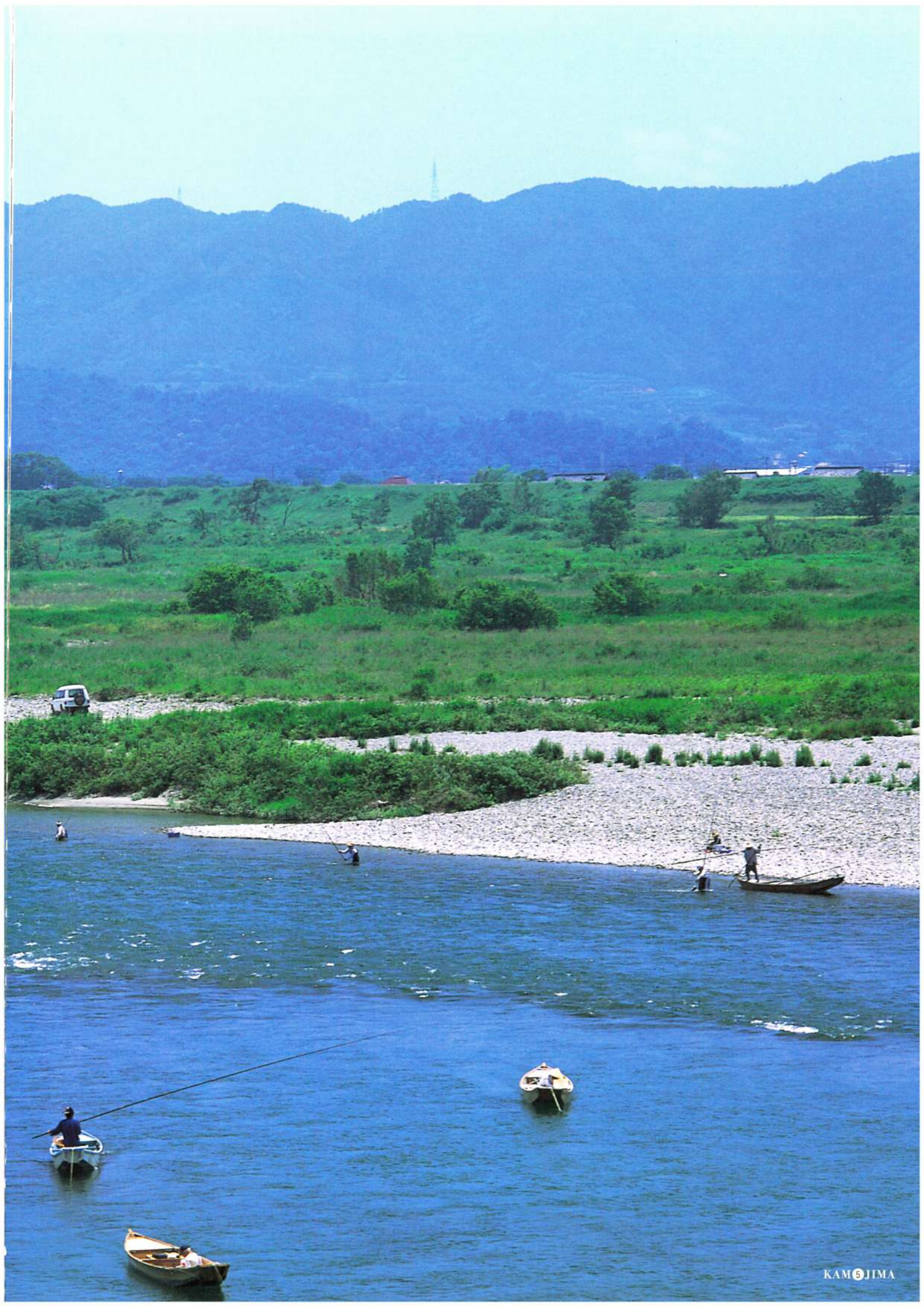
河原に舟上に、思い思いの場所で竿を振る。

サラサラと響く水の音、陽光にきらめく銀色の水しぶき。

この時期ばかりは、雄大な流れを誇る四国三郎も、

さらに趣を豊かにする。









祭囃子が聴こえる、故郷の秋。

大きくうねったかと思うと、次の瞬間には身体を小さく整え、また違う方へと頭(かしら)を廻す。
祭囃子の調べにのせて勇狂な動きを見せる森山の獅子舞は、文政年間(1830年頃)に始まったものだという。
途中、戦争や担い手である若者の都会流出などで中断を余儀なくされたが、
そのたびに雄々しくよみがえっては、今なお郷土の秋を彩っている。
獅子舞だけではない。子供の御輿に傘踊り…遠い日の記憶が、ここにはまだ生きている。

雪の朝、静かな冬のひととき。

年間平均気温16.2℃。一年を通して温暖な気候に恵まれ、冬期にも氷点下を記録することが少ない鴨島にも、稀に雪だよりの訪れる朝がある。白く清らかな雪が古刹の山門に降り積もり、田畑をやわらかに覆い、冬寂びた山々にうっすらと紗をかけてゆく、静かな時間。江川のほとりも、小さな神社の境内も、吉野川の土手も、すべて良く知っている風景なのに、つい見違えてしまうのはいわゆる「雪化粧」のなせる技だろうか。南国の雪景色。ほんやりしていると消えてしまう、夢にも似た真冬の贅沢である。



鴨島町のあゆみ

I

明治22年～昭和28年

1889年

1953年

戦前の鴨島は藍栽培や養蚕・製糸業で栄え、
いつも活気とにぎわいに満ちていました。
四季折々の風物が楽しめる「江川遊園地」には、
開通したばかりの鉄道で遠くからも遊山客が来園。
ほのぼのと何もかもが懐かしい、
そんな古き良き時代も、戦争勃発で終わりを迎えます。

chronological table

1889年 (明治22年)

・市町村制により、鴨島村(鴨島、喜来、上下島)、牛島村(牛島、麻植塚、上浦)、森山村(山路、内原、中島、森藤)、西尾村(飯尾、敷地、西麻植)となり、13村が4カ村となる。知恵島は柿原と合併し、阿波郡柿島村となる。(10月)

1892年 (明治25年)

・鴨島町に初めての製糸工場「達磨製糸」が興る。

1894年 (明治27年)

・日清戦争勃発(7月)本町からも応召兵

1897年 (明治30年)

・この年の鴨島町の人口、鴨島村3,173人、牛島村4,686人、森山村4,041人、西尾村5,210人 合計17,110人
・この頃が本町藍栽培最盛期(～35年まで)

1899年 (明治32年)

・鴨島一徳島駅間、川真田徳三郎等により徳島鉄道(私有鉄道)2月開通、8月に川島まで、西麻植駅の開業は10月となる。翌年8月、山川町船戸(現在の川田駅西)まで開通
・吉野川大洪水、牛島堤防決壊(8月)

1902年 (明治35年)

・この頃、インド藍より低廉なドイツの人造藍(ドイツインディゴ)に阿波藍が大きな打撃を受け衰退、養蚕へ切り替える農家が増える。

1904年 (明治37年)

・日露戦争始まる。(～38年)

1907年 (明治40年)

・麻名用水通水開始(5月)
・佐渡製糸工場設立(6月)

1908年 (明治41年)

・鴨島村が鴨島町となる。(7月20日)

1910年 (明治43年)

・筒井製糸株式会社設立(6月)
・この頃、多くの小規模製糸工場ができる。
・西麻植に常設芝居小屋「朝日座」ができる。大正13年に閉館

1911年 (明治44年)

・吉野川改修工事(堤防)着工(9月)、昭和2年完成
・上下島出身の喜劇俳優、曾我廼家五九郎、東京へ出て浅草公園を中心に、昭和初期まで活躍、一世を風靡する。

1913年 (大正2年)

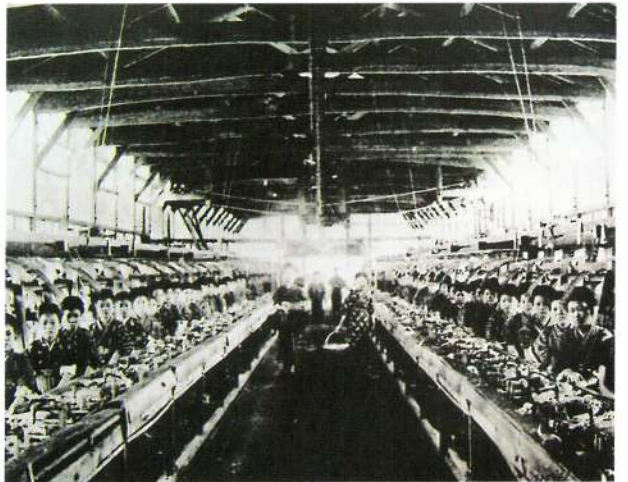
・吉野川改修工事のため、善入寺島から鴨島町内への移転始まる。



鴨島町は製糸業で発展。昭和29年牛島・森山・西尾、続いて東山・柿島の一部も併せて合併した(写真は鴨島町の中心街) (写真提供:徳島新聞社)



明治43年5月、鴨島町の川真田徳太郎氏(藍商)の館。川真田家は豪邸で県下一の庭園をもち、玄関は神殿風。右から8人目川真田徳太郎氏 (写真提供:徳島新聞社)



昭和5年には筒井製糸を筆頭に14の製糸工場があった。女工さんも2,600人を数えた(写真は明治末ごろ) (写真提供:徳島新聞社)



三味線の芋生ハル工師匠は門下生を引き連れて町内を奉祝、つれ弾きした(大正元年) (写真提供:徳島新聞社)

1914年 (大正3年)

- ・阿波商業銀行(現・阿波銀行)西本町に鴨島支店開設
- ・この頃、銀座通りに「文化座」ができ本町の娯楽の殿堂となる。昭和12年から、本町最初の映画常設館となるが、昭和36年に廃業

1915年 (大正4年)

- ・石原六郎、飯尾に呉郷文庫創設
- ・鴨島郵便局で電話交換事務開始

1916年 (大正5年)

- ・この年の鴨島町の人口、鴨島町3,814人、牛島村4,295人、森山村3,864人、西尾村5,708人、合計17,681人
- ・善入寺島全戸(506戸)立ち退き

1918年 (大正7年)

- ・徳島水力発電鴨島出張所開設、鴨島町に電灯が灯る。

1919年 (大正8年)

- ・徳島県原蚕種製造所、鴨島町に庁舎完成(徳島市前川から移転)

1921年 (大正10年)

- ・鴨島郵便局で電信事務開始
- ・この頃から昭和5年頃までが、本町製糸業の最盛期

1922年 (大正11年)

- ・片倉製糸紡績株式会社、佐渡製糸を買収し鴨島製糸所として操業開始
- ・徳島県原蚕種製造所、徳島県蚕業試験場と改称(11月)

1923年 (大正12年)

- ・阿波郡八幡町粟島の一部、西尾村に編入(4月)
- ・泉智等大僧正、真言宗総本山金剛峰寺の座主となる。(10月)

1925年 (大正14)

- ・徳島県立麻植中学校(現・川島高等学校)開校
- ・鴨島の菊人形展が筒井製糸所前で始まる。

1927年 (昭和2年)

- ・「菊遊座」ができ(現・協同病院東側)、菊人形展が盛大になる。

1928年 (昭和3年)

- ・工藤鷹助、江川遊園地起工(昭和6年、営業開始)

1930年 (昭和5年)

- ・この頃、閉鎖する製糸工場が多くなる。

1932年 (昭和7年)

- ・鴨島公園内に、泉智等大僧正の銅像、松村善蔵により建立



娯楽の殿堂となった「文化座」(写真は昭和35年頃)



家内安全を祈り、女、子供も参加して楽しい夜を過ごす信心講は大正末ごろ、娯楽の少ない農村では待ち遠しい行事だった(写真提供:徳島新聞社)



大正末期は女性の職業進出がめざましいころ。町内の婦人は豊島旅館などに集まって余暇を民謡踊りに興じた(写真提供:徳島新聞社)



昭和2年、阿波中央橋の木橋の架設作業が行われた。しかし、突貫工事のため1週間後の台風で流出した(写真提供:徳島新聞社)

chronological table

1933年 (昭和8年)

- ・鴨島公園内に、県下初の町民プール完成
- ・徳島県蚕業試験場に隣接して、徳島県繭検定所設置(10月)

1934年 (昭和9年)

- ・麻植塚駅(無人駅)開設
- ・小松島～川島にガソリンカー走る。
- ・牛島出身の藤井真信、岡田内閣の大蔵大臣に就任(7月)
- ・室戸台風来襲(9月21日)

1935年 (昭和10年)

- ・この年の鴨島町の人口、鴨島町6,146人、牛島村4,083人、森山村3,338人、西尾村4,866人、合計18,433人

1936年 (昭和11年)

- ・作詩家野口雨情来町、江川遊園地、鴨島公園等を視察、鴨島小唄を作詩(2月)後、坂本歌都子が作曲

1937年 (昭和12年)

- ・日支事変(日中戦争)起こる。徳島歩兵四十三連隊上海へ出動(鴨島町からも出征兵士続々応召)

1938年 (昭和13年)

- ・鴨島公園に隣接し、鴨島体錬場を建設(現・鴨島一中グラウンド)
- ・森山の山路にて旧象化石発掘

1939年 (昭和14年)

- ・戦争で負傷した軍人のために、国立徳島療養所を開設(5月)

1940年 (昭和15年)

- ・国営鴨島職業紹介所(現・ハローワーク)、秋葉神社前に開設

1941年 (昭和16年)

- ・牛島出身の岡田勢一、渭城中学校(現・城北高等学校)を創立
- ・第二次世界大戦(太平洋戦争)勃発
- ・小学校を国民学校と改称、各小学校の校名が変わる。
- ・菊人形一時中止

1942年 (昭和17年)

- ・切幡参りの客を乗せた「栗島の渡し船」沈没、死者多数(3月)
- ・食塩、みそ・しょうゆの配給統制始まる。
- ・戦争のため、梵鐘、銅像、橋の欄干、日用品等の金属製品回収、鴨島公園の泉智等大僧正の銅像も供出
- ・戦争のため、鴨島菊人形の向こう7年間の休止が決定
- ・国営鴨島職業紹介所、鴨島国民職業指導所として本郷へ新築移転



明治8年10月、鴨島町鴨島に鴨島小学校開校
同44年3月、鴨島尋常高等小学校となる
昭和22年、鴨島小学校に(写真は昭和6年の同校)〈写真提供:徳島新聞社〉



慰問袋は兵士の心をいやした。また女性からの手紙にはこおどりて喜んだ。
慰問袋の調製を終えた昭和8年当時の町内婦人会員〈写真提供:徳島新聞社〉



昭和8年、町民プール開き。多くの町民が駆けつけた



江川下流、水の便を利用していた農家のたたずまい。水車を備えて家の中で精米をすることができた(写真は昭和8年頃)〈写真提供:徳島新聞社〉

1943年（昭和18年）

- ・筒井製糸鴨島工場、航空機部品製作工場となる。(終戦まで)
- ・酒・たばこも配給制となる。

1944年（昭和19年）

- ・大阪の国民学校から児童259人、戦争のため本町に疎開
- ・各家庭、学校、工場、公共施設に防空壕を設置、空襲に備える。
- ・この頃より、敵の爆撃機(B29)たびたび本町上空通過

1945年（昭和20年）

- ・徳島市空襲を受け壊滅、被災者本町にも多く入る。(7月4日)
- ・第二次世界大戦(太平洋戦争)終結
- ・徳島師範学校(現・鳴教大)戦災にあい、本町の筒井製糸工場と江川遊園地で疎開授業(10月～22年9月)
- ・徳島県鴨島保健所、旧鴨島公民館の建物を借りて開所(10月)
- ・国立徳島療養所、厚生省へ移管(12月)

1946年（昭和21年）

- ・戦後の菊作りはじまる。
- ・岡田勢一、戦後初の総選挙当選(4月)
- ・知恵島境に徳島県立鴨島職業訓練所(テクノスクール)設置(10月)
- ・西尾村立西麻植幼稚園設立(10月)
- ・南海道地震、本町でも家屋倒壊(12月)

1947年（昭和22年）

- ・鴨島町大火災、銀座通りから東へ145戸焼失、被災者650人(3月)
- ・農地解放実施(3月、7月、10月、12月)
- ・国民学校を小学校と改称、6・3制の義務教育となる(4月)
- ・牛島、森山、鴨島、西尾の各新制中学校が発足(4月)
- ・鴨島国民職業指導所、鴨島公共職業安定所と改称(4月)
- ・西尾村立飯尾敷地幼稚園設立(4月)
- ・徳島県農業会麻植協同病院、現在地に開業(5月)
- ・第1回鴨島町花火大会開催(8月)
- ・鴨島公園および周辺地、松村善蔵の寄贈により復活(12月)
- ・この年の鴨島町の人口、鴨島町8,540人、牛島村5,529人、森山村4,419人、西尾村7,025人、合計25,513人

1948年（昭和23年）

- ・岡田勢一、芦田内閣の運輸大臣に就任(3月)
- ・鴨島町公安委員会の下に鴨島町警察署誕生、1951年廃止、県警に編入。川島警察署鴨島町警察官派出所となる。(現在の交番)
- ・各町村に農業協同組合設立



太平洋戦争中の昭和18年、鴨島町牛島には軍刀製作所があり、刀匠が懸命に軍刀づくりに励んでいた。そのもようを軍人たちが熱心に見学〈写真提供:徳島新聞社〉



昭和22年3月25日午後4時すぎ、国鉄・鴨島駅前銀座通りから出火して、元町、東本町の繁華街を焼きつくした〈写真提供:徳島新聞社〉



開院当時(昭和22年)の麻植協同病院正面入口〈写真提供:麻植協同病院〉



開院当時(昭和22年)の麻植協同病院〈写真提供:麻植協同病院〉

chronological table

1949年 (昭和24年)

- ・牛島村上浦幼稚園設立(4月)
- ・牛島村立牛島幼稚園設立(4月)
- ・菊人形センターとして、喜来に「有楽座」が誕生(9月)
- ・戦時中中止の菊人形が復活
- ・森山村立森山幼稚園設立(10月)

1950年 (昭和25年)

- ・天皇陛下四国巡幸、鴨島町体錬場にて陛下奉迎式(3月)
- ・旧森山公民館が設置される。



昭和25年、天皇陛下四国巡幸。3月28日鴨島町の体錬場にて天皇陛下奉迎式

1951年 (昭和26年)

- ・徳島県鴨島保健所、鴨島甲13(大北)に新館完成のため移転(7月)
- ・財団法人麻植商工会議所が設立される。(西本町)
- ・旧鴨島公民館が設置される。

1952年 (昭和27年)

- ・麻名家畜保健衛生所、牛島駅近くに開設(3月)
- ・鴨島中学校、西尾中学校合併し、組合立麻植第一中学校となる。(4月)
- ・鴨島幼稚園設立(10月)
- ・鴨島町教育委員選挙、教育委員会発足



鴨島体錬場は約4万人の奉迎者で埋め尽くされた

1953年 (昭和28年)

- ・牛島中学校、森山中学校合併し、組合立麻植第二中学校となる(4月)。10月に校名変更、麻植中学校となる。
- ・阿波中央橋開通(5月)
- ・組合立中央火葬場、柿原村知恵島に設立(11月)



昭和28年、第8回国民体育大会、聖炎旗リレー



昭和29年3月30日、西尾村廃村式の記念写真



昭和30年頃の有楽座。正面入り口部分を歌舞伎狂言「楼門五三桐」の南禅寺山門に見立て、「絶景かな」と唸る石川五右衛門の見流し人形が観客をお出迎え。

懐かしの菊人形

戦前の「菊遊座」に戦後の「有楽座」。古き良き時代の菊人形を語るには小屋の存在が欠かせません。現在の菊人形はドラマや芝居のワンシーンを美しく菊で飾った人形で表現しますが、昔の楽しみは、菊人形による「段返し」と呼ばれるお芝居の見物。菊花仕立ての装束をまとう人形の足下に台車を配し、上手へ下手へと動かすことで何幕もの筋立てを見せていたというから驚きです。題材は歌舞伎の人気演目など、当時の人々にとってはお馴染みの話ばかり。中には菊人形のお弓と子役のお鶴が演じる「傾城阿波の鳴門」など、趣向を凝らしたのもあったようです。一方、今も残る展示のみの菊人形は「見流し」と呼ばれ、こちらも有名芝居の一場面はもちろん、子どもたちに人気のあった「ポパイ」などのマンガ、その年の出来事などを人形師の華麗な技で見事に再現。その出来映えは、遠く県外から集まった愛好家をも唸らせる素晴らしさだったと伝えられています。



段返し「傾城阿波の鳴門」(昭和30年頃) 子役と菊人形の珍しい競演



菊の女王選賞会(昭和30年代後半)



見流し「牛若丸」(昭和30年代前半) まるで本物の舞台のような迫力



段返し「桶狭間今川本陣」(昭和30年頃) 殺陣のシーンも台車の動きで表現



場面の下絵(昭和30年代前半)



上の下絵をもとにした段返しの菊人形(有楽座の舞台)

昭和30年頃の菊人形の姿を伝える、貴重な資料のひとつに「下絵」があります。細やかな筆致でメインとなる人形をはじめ、背景までもいねいに描き込まれており、それ自体が作品といっても過言ではない仕上がり。当時の人々がいかに菊人形に芸術的情熱を傾けていたかが感じられます。絵の題材は、いかにも菊人形らしい古典芝居「勧進帳」(上)のほか、西洋風の街並みが斬新な「怪傑ゾロ」など多種多様。老若男女が魅了されたのも当然となぜける芸の広さがうかがえます。



見流し「皇太子ご成婚」(昭和34年) 時事ニュースを題材にした菊人形も



菊人形

鴨島菊人形の歴史は、生糸景気で活みなぎる1925年(大正14年)に始まりました。最初は一企業の提供でしたが、地元の菊愛好家や有志の尽力により、またたく間に秋の一大イベントに成長。最盛期には関西からも見物客が訪れ、品評会には一万鉢もの出品を数えるなど「菊は鴨島」の名を広く印象づけました。その後、戦争等の事情により短い中断を挟みながらも、菊人形に対する人々の想いは絶えることなく、現在では役場前広場で毎年開催されています。





鴨島鳳翔太鼓

1990年(平成2年)に「ふるさと創生事業」の一環として誕生した「鴨島鳳翔太鼓」。
鴨島の他の伝統芸能と比べるとまだ歴史の浅いグループですが、結成当初から

本格的な和太鼓集団をめざし、善通寺龍神太鼓創設者・石井響宇山氏に師事。
厳しい練習を経て、今では年間20回程度の公演を行うほどに成長を遂げています。

名前の「鳳」は想像上の鳥の名で、「翔」は空高く飛ぶこと。

ふるさと鴨島が、鳳のように空高く飛躍することを願って名付けられました。





五九郎まつり

大正期に「喜劇王」として人気を博した鴨島出身の喜劇役者・曾我廼家五九郎。彼の功績を讃え、当たり役「ノンキナトウサン」の仮装をした人々が町内を練り歩くユーモラスな祭りです。

芝居に映画にと大活躍だった五九郎は、興行師としても手腕を発揮。浅草の中心人物としてまさに一世を風靡しました。

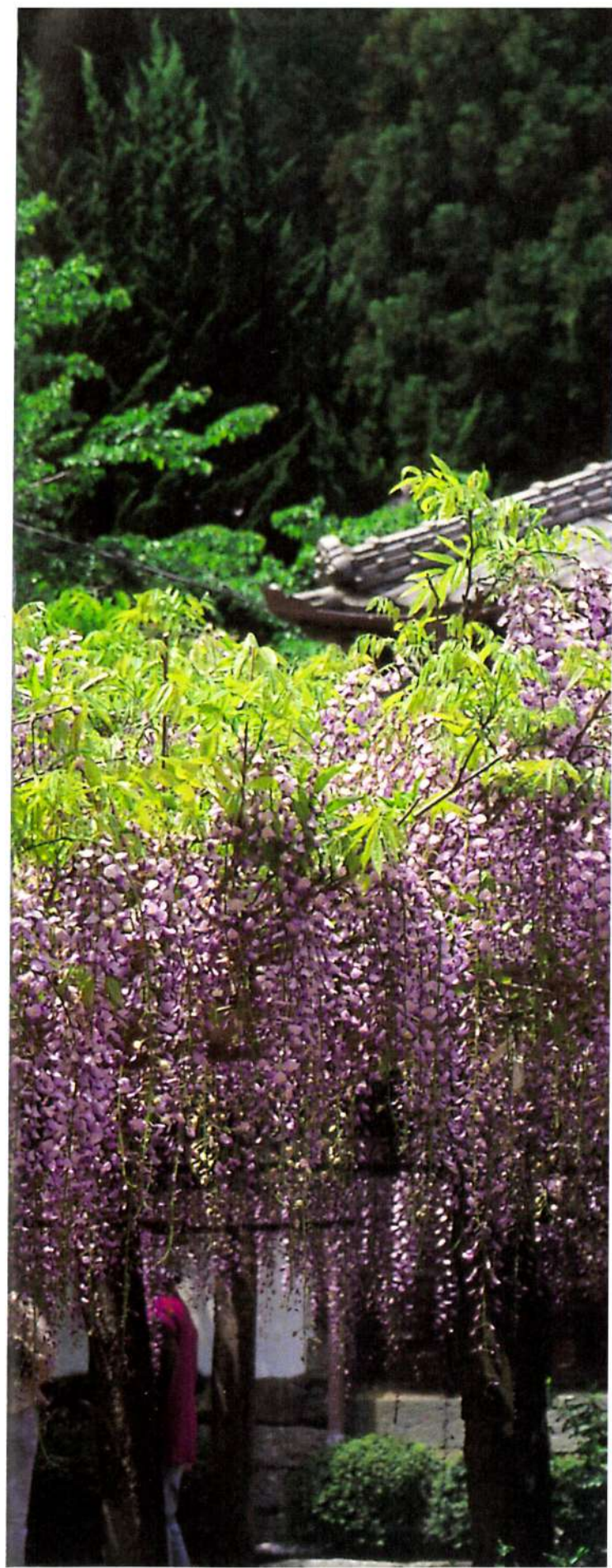
その一方で、ふるさと上下島の若宮神社に匿名で玉垣を寄進するなど、華やかな生涯の中にも、謙虚な人柄を偲ばせるエピソードが残っています。





藤井寺

四国霊場第十一番札所として、四季を通じて多くのお遍路さんが訪れる名刹。
名前の由来は境内にある弘法大師お手植えと伝えられる藤の木で、
毎年5月頃、幾房もの花が咲きそろう様は雅な風情にあふれています。
国の重要文化財に指定されている御本尊の「木造釈迦如来座像」は、
その御手に小さな薬壺が添えられていることから「薬師如来」としても
善男善女に親しまれており、健康を願う人々の参拝が絶えません。





鴨島のまつり

伝統の祭りが大切に受け継がれている鴨島。夏から秋にかけての季節は、町内のあちこちで、地域に伝わる祭りや季節の催しが開かれます。

夏祭りの代表と言えばやはり阿波踊り。踊り手たちの気迫と技に、見物客もアッという間に乱舞の渦に引き込まれ、栈敷の熱気は最高潮に。

対称的に、賑やかな祭囃子の中にもどこか郷愁を誘われるのが秋祭り。子どもたちの可愛い踊りが、秋のおだやかな陽ざしに似合います。



① 鴨島県民グラウンドで毎年8月に開催される納涼花火大会。当日は夜店も多数並び、浴衣にうちわで夏を満喫する人で賑わいます。

② 鴨島の阿波踊りは8月14日～16日に開催され、駅前通りに30～40連が踊り込む。

③ 「傘踊り」の源流とも言われる「タタラ踊り」。豊作祈願、雨乞いの踊りとして始まったと伝えられています。

④ 獅子舞とともに森藤八幡神社に奉納される「傘踊り」。小学生10～20人程度によって踊られます。

鴨島町のあゆみ

II

昭和29年～昭和46年

1954年

1971年

戦後の復興期を経て、昭和29年には新・鴨島町が発足。

公共施設や道路の整備が次々に進められ、
町の表情が急激に変化し始めたのがこの頃です。
のどかな農村地帯から、自然豊かな郊外都市へ。

新しい住民の増加にしたがって、
住宅地や商業施設も次第に増えてきました。

chronological table

1954年 (昭和29年)

- ・板野郡一条町先須賀・四ツ屋地区を牛島村に編入(3月)
- ・主要地方道、鴨島～三本松線の鴨島新橋完成(3月)
- ・鴨島町、牛島村、森山村、西尾村の4町村が合併し新鴨島町発足。暫定的事務所を鴨島小学校青雲閣に置き、各旧役場を支所とする。(3月)
- ・阿部永一氏初代町長に就任(5月)
- ・鴨島公民館を鴨島甲43に設置(5月)
- ・中学校の校名を鴨島第一中学校、鴨島東中学校と改称(11月)



町村合併時(昭和29年)の鴨島町議会議員(定数82人)

1955年 (昭和30年)

- ・東山村樋山地地区を鴨島町に編入(1月)
- ・麻植商工会議所組織変更により、鴨島商工会議所となる。(3月)
- ・町議会議員定数30人に変更(3月)
- ・旧鴨島町役場の庁舎を大北に移築、鴨島町公民館とする。(4月)
- ・河野進氏2代目町長に就任(10月)
- ・国勢調査、鴨島町の人口 23,843 人(10月)



旧庁舎を公民館として移築



来町し、駅舎にて談話中の三木運輸相



昭和30年度の成人式

1956年 (昭和31年)

- ・西麻植に麻植酪農集乳所設立(現・明治乳業)
- ・鴨島町社会福祉協議会が任意団体として発足(10月)

1957年（昭和32年）

- ・公民分館（西尾、森山、牛島）旧役場に設置（1月）
- ・役場庁舎、鴨島字中郷388 に新築（2月）、4月から業務開始
- ・柿島村知恵島地区を鴨島町に編入（3月）
- ・鴨島町立鴨島商業高等学校創立（4月）
- ・鴨島電報電話局（現・NTT）本郷に完成、11月に開局。四国で初めての自動即時通話を、徳島－鴨島間で開始



鴨島町立鴨島商業高等学校起工式

鴨島町役場庁舎落成式には多くの町民も参加（昭和32年）

1958年（昭和33年）

- ・鴨島有線放送電話共同施設開設

1959年（昭和34年）

- ・飯尾敷地小学校講堂完成（2月）
- ・鴨島第一中学校屋内運動場完成（3月）
- ・鴨島小学校講堂完成（3月）
- ・新国道、徳島－西条線のうち、「八本松～市瀬」着工（4月）
- ・堀江安一氏3代目（4代目）町長に就任（5月）



完成当時の飯尾敷地小学校の講堂

chronological table

1960年 (昭和35年)

- ・菊人形の展示会場であった有楽座が類焼(2月)、その秋、有楽園として復興。
- ・西麻植小学校講堂完成(3月)
- ・新国道、徳島-西条線のうち、「市瀬~中島」着工(4月)、以後、部分的に開通
- ・銀座通りアーケード完成(8月)
- ・菊人形、江川遊園地で開催(10月)



国道192号線が交通の中心となる(現在の牛島小学校付近)

1961年 (昭和36年)

- ・明治乳業(株)徳島工場設立(1月)、6月から操業開始
- ・鴨島公共職業安定所、中西に新築、本郷から移転(3月)
- ・鴨島郵便局、本郷に新局舎完成(5月)、7月から業務開始
- ・第2室戸台風により町内全域に被害(9月)



江川遊園地菊人形の御招待券(昭和36年当時)



昭和36年頃の鴨島郵便局



昭和36年当時の西麻植小学校

1962年 (昭和37年)

- ・鴨島町立鴨島商業高等学校、県立高校へ移管(3月)
- ・片倉工業株式会社 鴨島工場閉鎖(3月)
- ・国道新設のため鴨島第一保育所廃止(3月)
- ・町議会「交通安全都市宣言」決議(3月)



国道工事のため廃止された鴨島第一保育所

1963年 (昭和38年)

- ・鴨島東中学校屋内運動場完成(2月)
- ・2級国道徳島-西条線を2級国道192号と改称
- ・三輪自動車によるゴミ収集開始(4月)
- ・鴨島第一保育所新築(7月)
- ・鴨島駅前時計塔完成(8月)

1964年 (昭和39年)

- ・鴨島町ゴミ焼却場完成(1月)
- ・上浦地区簡易水道完成(2月)
- ・「鴨島町誌」発刊(3月)
- ・西麻植会館完成(4月)
- ・簡易水道工事着工、42年度完成
- ・2級国道192号、川島町境まで開通(6月)
- ・上浦小学校プール完成(7月)



「カギっ子」対策として設置された児童館



町内小学校初となる上浦小学校プールの落成式(昭和39年7月)

1965年 (昭和40年)

- ・森山地区簡易水道完成(1月)
- ・鴨島小学校屋内運動場完成(2月)
- ・2級国道192号、1級国道へ昇格(3月)
- ・国勢調査、鴨島町の人口 23,138 人(10月)
- ・菊人形の有楽園休業



鴨島小学校に待望の屋内運動場完成

chronological table

1966年 (昭和41年)

- ・西麻植地区簡易水道完成(2月)
- ・鴨島小学校校舎改築着工(7月)昭和47年3月完成
- ・西麻植小学校プール完成(8月)
- ・森山小学校鉄筋校舎完成(12月)
- ・上浦幼稚園園舎改築(12月)



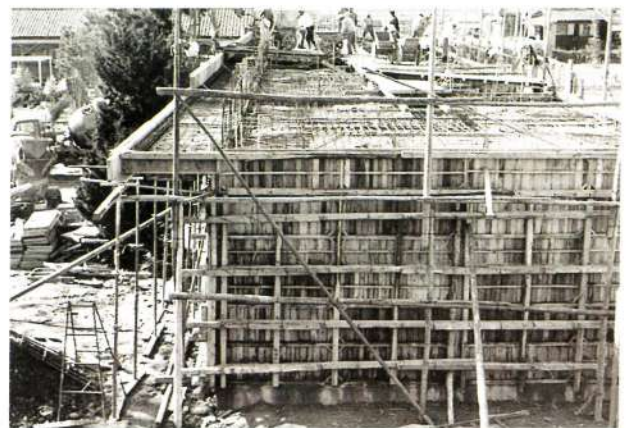
上浦幼稚園園舎完成(昭和41年)

1967年 (昭和42年)

- ・牛島地区簡易水道完成(3月)
- ・広報「かもじま」創刊(4月)
- ・川真田郁夫氏5代目(6代目)町長に就任(5月)
- ・森山小学校プール完成(7月)



創刊当時の広報「かもじま」



工事中の知恵島小学校



森山小学校にプール完成(昭和42年7月)

1968年（昭和43年）

- ・鴨島小学校校舎増築(3月)
- ・知恵島小学校校舎改築(3月)
- ・鴨島工業団地に長尾テキスタイル(現・日新デニム)誘致(5月)
- ・麻植地区開拓パイロット事業着工(7月)
- ・阿波中央橋下流河川敷に鴨島県民グラウンド完成(7月)
- ・鴨島商業高校第50回全国高校野球選手権大会出場(8月)
- ・菊人形、江川遊園地開催を終了



一回戦の相手は岩手県代表・盛岡一高、試合結果は2対4で惜しくも涙をのんだ



新聞各紙も鴨島商業の甲子園出場を大きく取り上げた
(写真は読売新聞 8月4日付)



甲子園球場で撮影。緊張した表情の選手たち



改築された知恵島小学校校舎



開発が進む開拓パイロット事業

chronological table

1969年 (昭和44年)

- ・西麻植小学校校舎完成(3月)
- ・上浦、牛島、鴨島、西尾、知恵島の5農業協同組合が合併し、鴨島農業協同組合発足(4月)
- ・鴨島町章制定(5月)
- ・鴨島第一中学校管理棟完成(7月)
- ・牛島小学校プール完成(7月)
- ・江川遊園地、吉野川遊園地と改称(8月)
- ・主要地方道、鴨島～三本松線、国道318号に昇格(12月)



現在の吉野川遊園地正門



改築中の西麻植小学校



吉野川遊園地には四国最大規模の観覧車も



全国教育美術展に鴨島小・幼から12人が入賞



町章 (昭和44年5月制定)

由来 鴨島町の「力(ちから)」に通じます。その文字を飛鳥形に表現、町勢将来の発展と町民相互の信頼、融和、協力、平和を象徴したものです。

また、「日・月」をも合わせ表現し、宇宙時代に力強いアクセントを付したものです。

1970年（昭和45年）

- ・西保育所完成(2月)
- ・上浦小学校屋内運動場完成(3月)
- ・鴨島町清掃センターに20トン焼却炉完成(3月)
- ・徳島県蚕業試験場本庁舎等を現在の場所に移転改築(4月)
- ・町道「飯尾上下島線」着工(6月)
- ・鴨島保健所所在地に新築、大北から移転(8月)
- ・呉郷団地完成(11月)
- ・粟島の渡し終了



講堂を屋内運動場に改築中の上浦小学校



着工前の呉郷団地周辺



現在では多くの住宅が建ち並ぶ呉郷団地

chronological table

1971年 (昭和46年)

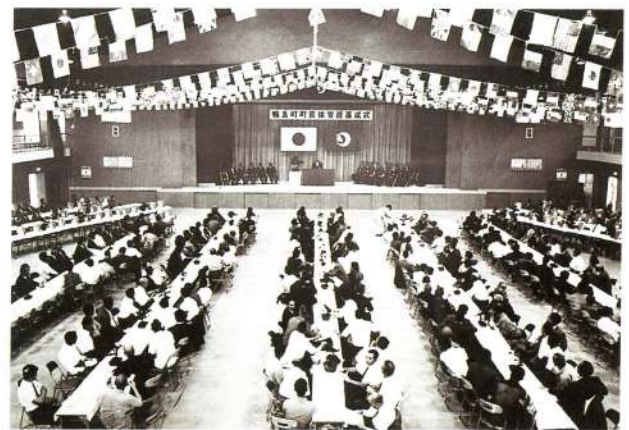
- ・鴨島小学校校舎改築(2月)
- ・鴨島町都市下水路事業認可(3月)
- ・鴨島町民体育館完成(3月)
- ・阿波麻植消防組合設立(4月)
- ・鴨島町上水道事業認可(4月)、47年12月に起工
- ・町議会議員定数26人に変更(4月)
- ・鴨島町が徳島東部都市計画区域として決定される。(5月)
- ・鴨島公園に泉智等大僧正の銅像、松村家により復活(5月)
- ・鴨島町体育協会設立(6月)
- ・鴨島駅前に「ノンキナトウサン」碑設置(7月)
- ・インターハイ(高校総体)ウェイトリフティング競技開催(8月)
- ・飯尾敷地小学校プール完成(8月)
- ・神山町への県道、本名-鴨島線が自衛隊の協力で開通(11月)



完成した飯尾敷地小学校プール(昭和46年8月)



鴨島町民体育館完成(昭和46年3月)



盛大に行われた鴨島町民体育館落成式



駅前のシンボル「ノンキナトウサン」碑



復活した泉智等大僧正の銅像(江川・鴨島公園)



私の大好きな鴨島町。

鴨島小学校 6年 乾 友美 (いぬい ゆみ)

わたしは、この鴨島町で育ったので、鴨島町が大好きです。

一番好きなのは、やはり「鴨島小学校」です。わたしが3年生の7月1日、やっと完成した校舎に入りました。初めは、木の香りが校舎を包みこんでいました。新校舎の中は、古い校舎とは比べものにならないくらいきれいでした。

特別教室のある校舎とみんなの教室のある校舎とが別になっていて、学年文庫には、わたしの大好きな本がたくさん収まっていました。ろうかも広々として明るく感じられました。こういう鴨島小学校がわたしの自慢です。

鴨島町の好きなところはまだまだあります。6月にある「五九郎まつり」です。このお祭りには、毎年、鴨島小学校の金管バンドがオープニングパレードをします。わたしも金管バンドに入っています。町外からもたくさんの人がお祭りに来ているので、緊張するけど一生懸命がんばりました。みんなもたくさんのお店やもよおしものがあるので楽しみにしている行事です。

この前は、「少年の森」へキャンプに行きました。「リーダー研修」といって、鴨島町内の子ども会の代表の子が集まって、いろいろな活動をするものです。これは、

鴨島町だけがやっていることだと聞きました。テントを立てたり、団体行動の大切さを教えてもらったり、食事を作ったりしました。1泊2日でしたが、たくさんの友だちを作ることができました。

鴨島町は、10月に麻植郡の他の3町村と合併して「吉野川市鴨島町」になりますが、このままわたしの大好きな鴨島町でいてほしいです。こういう思いで、今わたしたち6年生は、総合的な学習の時間に「よりよい吉野川市の誕生を願って」というテーマで活動しています。

わたしは、鴨島町の福祉について調べています。調べていくと、今まで気がつかなかったことに目がいき、いろいろなことが分かってきました。たとえば、盲導犬が入れる店があること、車いすの人が入れるお店や、車いすで入れるトイレがけっこうたくさんあることが分かりました。

今、わたしたちのグループは、障害のある方の立場になって、道路を歩いてみる計画を立てています。そして体験してみて、良くないところは直し、良いところはさらに良くして残したい、とまとめたいと思います。

わたしの大好きな鴨島町が、より良くなって「吉野川市鴨島町」になることを心から願っています。



ぼくたちの町、鴨島町。

鴨島小学校 6年 笠井 聖也 (かさい せいや)

ぼくたちの住んでいる「鴨島町」は、とても自然の多い町です。

川では、四国で一番大きな川「吉野川」が流れています。吉野川は、日本でも指折りの川で、「四国三郎」と呼ばれています。昔は、大雨でたびたび洪水の被害にあったそうですが、上流から肥えた土が運ばれ、農業が盛んになり、人々はこの吉野川の恵みを受けながら、農業を中心とした生活を営むようになったそうです。今でも吉野川は、飲み水や田畑になくってはならない大切な川です。

吉野川以外にも、鴨島町には誇りにしたい川が流れています。名水百選にも選ばれた「江川」です。江川の湧き水源の水温には、夏冷たく冬温かいという珍しい自然現象が見られます。そのほかにも「飯尾川」という川が町を流れています。この川は、山地の水を多くの谷が集めて流れこんでいて、6月には、ほたるを見ることが出来る場所もあります。

木々では、県の天然記念物に指定されている樹齢約1,000年と言われる「壇の大きくす」が森藤に、樹齢約300年と言われる「もっこく」が玉林寺にあります。また町内には、牛島八坂神社の「もち」、徳住寺の「まき」を中心に、たくさんの大木や古木が残っています。

徳住寺は、ぼくの家のお墓があるお寺です。いつもは何となく通って見ているだけで気がつかなかったのですが、実際に「まき」の下に立って真上を見上げると、その高さにびっくりしました。樹齢160年、樹周り2.1メートル、高さ10メートルの大木の幹は、途中でさけたように二つに分かれています。生き生きとして、こけも生え、樹齢を感じさせます。どっしりと町に根付いているこれらの木々に、ぼくたちは、勇気もらえるような気がします。

今年10月1日に、ぼくたちの町「鴨島町」は、川島町・山川町・美郷村と合併して、一つの市「吉野川市」になります。ほかの町村にも鴨島町と同じように多くの自然があると思います。吉野川市になっても、きれいな川や木々が元気で大きく育つために、川の汚れや空気の汚れがないように、また生活から生まれるごみの問題や、生活排水の問題についても、みんなで考えていきたいと思っています。

ぼくたちの町「鴨島町」が、自然がいっぱい残る豊かな市として発展していくことを、ぼくたちは祈っています。



温かい町「鴨島町」が大好き。鴨島東中学校 3年 明石 りさ (あかいしりさ)

鴨島町は、自然豊かな田舎町です。山と川、青田に囲まれている鴨島町に住んでいて、私はとても幸せです。小学生の頃は、いつも友達とザリガニ採りやフナ採りをしたり、向麻山に行ったりして遊んでいました。このような遊びは、田舎に生まれたからこそできたことです。また小学校では、とうもろこし植え、田植え、芋掘りを教えてくれたり、中学校では、菊作りを教えてくれたりしました。そのおかげで、私たちは自然とふれあう機会がより多くなり、たくさんの体験ができました。自然と遊ぶことは、本当に楽しく大切なことだと思います。

私の学校では、あいさつ運動が行われています。この運動には、あいさつをすることの大切さや、返事が返ってくることのうれしさに気づいてほしいという、先生方の願いが込められているのだと思います。町の人は「こんにちは。」と言えば「おかえり。」と返事をしてくれます。それがとてもうれしくて、私の心は温かくなり、思わず「ただいま。」と言いたくなります。私はこの「おかえり。」が聞きたくてたくさんあいさつをしたくなるのです。そして、自然に笑顔になっている自分に気づきます。このことは、地域の人々との結びつきを感じる、良い機会だと感じます。

鴨島町には、「鴨の湯」があります。これは、人々にとっては憩いの場であり、お年寄りのことも良く考えたものだと思います。そういう施設は大切だと思います。鴨島町は、みんなが支え合って生活している、そんな町だと思います。私はこのような温かい町、鴨島が大好きです。

10月には、鴨島町は吉野川市に生まれ変わります。市の

名称である「吉野川」は豊かな自然の象徴であり、合併する町村とのつながりの証だと思います。私は、吉野川市になっても今までと変わりなく、自然豊かな温かい市であってほしいと思います。

しかし今、川や用水、公園などには、たくさんのゴミが散乱しています。また、川や用水には洗剤や油が流れ、魚たちのすみ場所を汚してしまっています。私たちは、このような現実から目を背けず、美しい自然を守るために皆で協力し、自然破壊を防ぐ努力をしていかなければなりません。

また、温かい町づくりの基礎となるのは「バリアフリー」だと思います。少子高齢化が進む中で、老後を安心して暮らせる町であることは重要だと思います。お年寄りはもちろん、障害を持つ人々にとっても、安心して暮らせる町、そして住みやすい町であってほしいと思います。車いすの人が気軽に乗れるようなバスや点字などが当たり前で存在する町が私の理想です。また、手話やボランティアなどに多くの人々が関心を持ち、みんなで協力し合えるような町となってほしいと思っています。

私は、吉野川市に住むすべての人々が、幸せであってほしいと願っています。今のそれぞれの町村の良いところを大切に、共に成長していけるような町づくりを進めてほしいと思います。そして、吉野川市が子供もお年寄りも、みんなが安心して楽しく暮らせる、笑顔の絶えない明るい町でありますように。



我が町、鴨島町。鴨島第一中学校 3年 野田 恭平 (のだ きょうへい)

川島町、山川町、美郷村、そして今僕が住んでいる鴨島町、この四つの町村が今年の秋合併することになった。今、もしこの合併に対する意見を問われると、僕個人としては複雑な気持ちになってしまう。理由は、「名残惜しい」ただそれだけだ。住民の意見で決まった「吉野川市」、確かに覚えやすく読みやすい名前かもしれないが、愛着のある「麻植郡」に別れるのは、淋しい気もする。

合併を目前にし、鴨島町について調べてみた。鴨島町が今の形になったのは約50年前。その発足から僕の生まれた平成元年までにもいろいろな分野で発展や衰退もあったようだ。また鴨島町の伝統文化である菊人形、菊作りから始めたこの文化を後世まで引き継ぐことはとても素晴らしいことだと思う。このように一人ひとりが、鴨島町のさまざまな部分を振り返ってみると、良い部分も、見直す必要がある部分も出てくると思う。

そこで、僕も自分自身に鴨島町民としての自覚があったかどうかを自問自答してみた。今、僕は15歳である。ということは、鴨島町を15年間見てきたことになる。小学校から中学校へと成長する過程で、だんだんと町をきれいにしたいという気持ちが変わってきた。この気持ちも、町を大切に思う気持ちにつながっているのではないかと気づいたとき、僕の心の中でも故郷「鴨島」が大きくなっていると感じられ、うれしくなった。昔から伝わる文化を守り、育て、後世に伝えていかなければならないと強く感じている。

そして、平成16年10月1日、長い時間をかけて議論され、

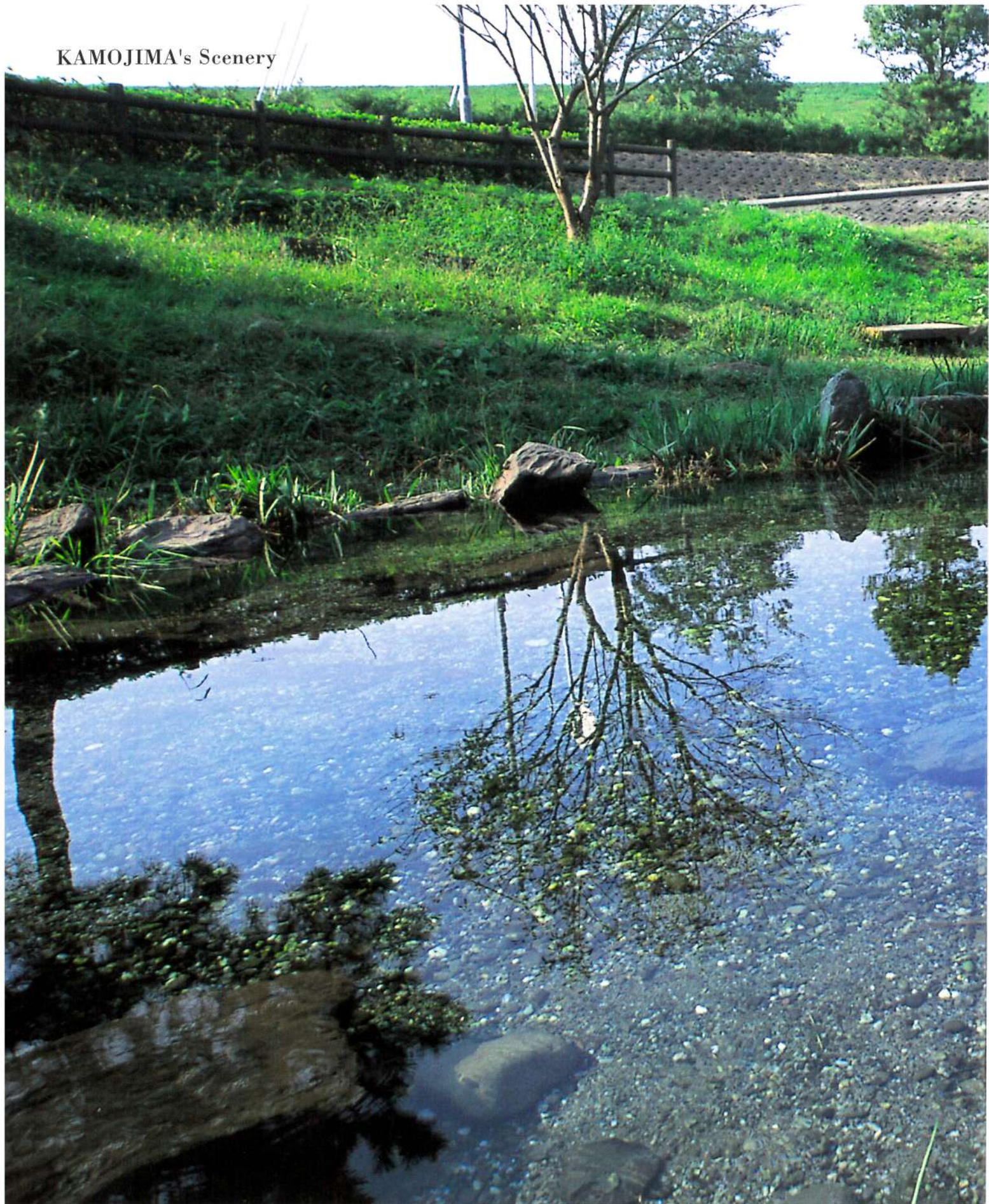
麻植郡4か町村の合併が現実のものとなる。今まで大切にしてきた「麻植」の名はここで無くなりますが、合併することにより良くなることもたくさんあるのではないだろうか。文化が広がり、大会のイベントなども規模が大きくなり、人が集まり、新しいコミュニティが創造できる。そんな中でも、各地域で日々受け継がれてきた伝統や文化に、より関心を持ちいつまでも伝えていけるよう願っている。

新しく始まる「吉野川市」の市政にお願いしたいことがある。それは環境のことだ。ゴミの量を少なくしたり、ゴミの不法投棄を許さないようにしたりすることだ。美しい環境は住民一人ひとりの心を落ち着かせ、精神的成長をもさせてくれると信じている。

この合併は、ただ四つの町村が一つになるというだけではない。僕の気持ちの中でも大きな変化が起ころうとしている。今まではいろいろな面で郡内の町村を比較し、少しでも鴨島町が良いとうれしく思ったりしていた。しかし、吉野川市の発足とともに、今までの生活を見直し、市民の一員という自覚を強くもって生活していきたいと思う。

鴨島町で生まれ、鴨島町で育ち、鴨島町で学んだ。それら数々の思い出を一杯に抱え、現在も鴨島町の一員として穏やかに暮らしている。吉野川市になっても今までの思い出を忘れず、先人たちの築き上げた鴨島という町をたたえ、敬う気持ちを持って自分の歴史を築いていきたい。

我が町、「鴨島町」永遠に…。



江川湧水源 (県指定天然記念物)

猛暑の時期には水泳もできないほど冷たく、寒空の下で色鮮やかな睡蓮が薫る…。
夏は約10℃、冬は約20℃と、季節と水温が逆転する江川の水温異常現象は、
吉野川の伏流水がこの湧水源に達するまでにかかる時間の長さや、
通ってくる地層の地熱から受ける影響などが主な原因と言われています。
環境庁の全国名水百選にも選ばれており、冬に気温や水温などの条件が調べば
川面を霧が漂う幻想的な景色が現れる不思議な魅力の水辺です。





森藤 壇の大クス(県指定天然記念物)

複雑に張り出した大枝小枝が神秘的な雰囲気醸し出している巨木。
樹周約10m、樹高約35m。2kmほど離れた鴨島駅からも見える樹冠は
東西に約26m、南北には実に53mもの広がり誇っています。
すでに千年近い樹齢と言われますが、四方に張り出した太い横枝を
自身の幹の力だけでしっかりと支えているその雄々しい姿には
重ねてきた年輪の風格と、生命の素晴らしさが満ちているようです。



鴨島町のあゆみ

III

昭和47年～昭和63年

1972年

1988年

「ハードからソフトへ」の時代を反映して、
鴨島ならではの歴史や文化、自然環境などの
再発見が盛んに行われるようになりました。
野外活動センター「少年の森」整備や古墳発掘調査、
「五九郎まつり」開催など、その内容は実に多彩。
町の文化財指定が始まったのもこの時期です。

chronological table

1972年 (昭和47年)

- ・鴨島農業協同組合本部、前年12月に完成した購買センターへ移転(1月)
- ・飯尾上下島線開通(3月)
- ・阿波麻植消防組合、板野郡の一部加入のため阿北消防組合と改称
- ・鴨島町土地開発公社設立(5月)
- ・第1回五九郎まつり開催(6月)
- ・鴨島小学校プール完成(7月)
- ・「みかわ橋」命名(8月)
- ・飯尾にコミュニティセンター完成(9月)



工事中の飯尾上下島線(昭和45年頃)



初代曾我廼家五九郎
「ノンキナトウサン」

大正十一年秋

ノンキナトウサン(初代 曾我廼家五九郎)
鴨島町上下島出身。明治、大正、昭和にかけて喜劇界で活躍し、日本のチャップリンと言われた(写真は、大正11年頃) (写真提供:徳島新聞社)



現在の「みかわ橋」



建設中のコミュニティセンター



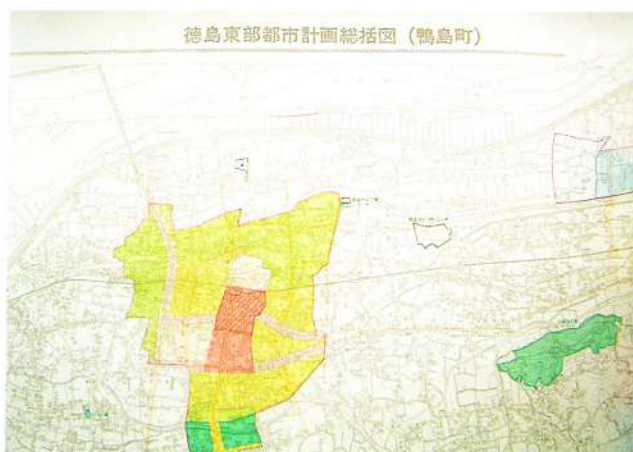
コミュニティセンター落成式(昭和47年9月)

1973年 (昭和48年)

- ・知恵島小学校屋内運動場と管理棟完成(2月)
- ・鴨島町養護老人ホーム「天寿荘」完成(3月)
- ・鴨島商工会議所、旧鴨島保健所へ移転(5月)
- ・山路不燃物埋立地供用開始(10月)
- ・都市計画道路と用途地域決定(12月)



養護老人ホーム「天寿荘」完成(昭和48年3月)



都市計画図



役割を終え適正閉鎖工事中の不燃物埋立地(平成16年7月撮影)

1974年 (昭和49年)

- ・徳島県立鴨島養護学校創立(小・中等部)、高等部は翌年4月
- ・鴨島町上水道工事完成(4月)
- ・台風8号により、寺谷川、三谷川、湯吸谷川、唐谷川が決壊(7月)
- ・飯尾敷地小学校増改築(8月)
- ・町道東森藤内原線着工(12月)



現在の鴨島町上水道取水場



現在の東森藤内原線

chronological table

1975年 (昭和50年)

- ・森山幼稚園園舎改築(3月)
- ・久保農夫也氏7代目町長に就任(4月)
- ・飯尾天神社境内に「少年の森」開設(5月)
- ・知恵島小学校プール完成(7月)
- ・国勢調査、鴨島町の人口 24,747人(10月)



少年の森では夏になればテントの花が咲く



アーチが子どもたちを出迎える「少年の森」



現在の森山幼稚園

1976年 (昭和51年)

- ・西麻植小学校増築完成(3月)
- ・上浦小学校校舎増改築(3月)
- ・鴨島町に大型量販店(キョーエイ)が初めて出店(9月)



体の不自由な方のために移動入浴車を購入(昭和51年)



オープン当時のキョーエイ、多くの買い物客で賑わった

1977年 (昭和52年)

- ・神島会館が完成(3月)
- ・公共下水道事業認可(3月)
- ・鴨島幼稚園園舎完成(4月)独立幼稚園となる。
- ・鴨島駅前で大菊人形展を再開(10月)



独立幼稚園となった鴨島幼稚園



神島会館が完成(3月)



10年ぶりに復活した鴨島駅前の人形



昭和52年度の敬老大会

chronological table

1978年 (昭和53年)

- ・呉郷保育所完成(2月)
- ・向麻山公園事業認可(2月)
- ・飯尾敷地幼稚園園舎改築(3月)
- ・鴨島農業協同組合本部、購買センター南側に新館建設、移転(4月)
- ・鴨島第一中学校校舎改築(11月)
- ・五九郎音頭レコード制作



現在の呉郷保育所



五九郎音頭のレコード&ジャケット



完成した飯尾敷地幼稚園(昭和53年3月)



鴨島第一中学校校舎改築(昭和53年11月)



当時の町民体育祭



駅前中央通り、アーケード・カラー舗装工事始まる

1979年（昭和54年）

- ・河野正氏8代目町長に就任(4月)
- ・老人福祉センター完成(10月)
- ・鴨島町中央公民館、現在地に完成(12月)、翌年2月開館



工事中の鴨島町中央公民館



完成した鴨島町中央公民館

1980年（昭和55年）

- ・鴨島東中学校校舎改築(3月)
- ・国立徳島療養所、国立療養所徳島病院と名称変更
- ・町PTA連合会による第1回「町民におくる人権の夕べ」開催(11月)



改築された鴨島東中学校



町民におくる人権の夕べ(写真は平成4年に開かれたもの)

chronological table

1981年 (昭和56年)

- ・知恵島幼稚園園舎改築(3月)
- ・牛島小学校屋内運動場完成(3月)



完成した知恵島幼稚園 (昭和56年3月)



当時の成人式



完成した牛島小学校屋内運動場 (昭和56年3月)

1982年 (昭和57年)

- ・森山小学校校舎改築(2月)
- ・西麻植会館、新築移転(3月)
- ・森山農業協同組合、鴨島農業協同組合へ吸収合併(4月)
- ・戸田稔氏9代目(10代、11代、12代目)町長に就任(11月)
- ・敷地の吐気山(ほげやま)古墳発掘調査(11月)



新築移転した西麻植会館落成式 (昭和57年3月)



当時の町民体育祭 (昭和57年10月)



吐気山古墳発掘調査の無事を祈る (昭和57年)

1983年 (昭和58年)

- ・森山小学校屋内運動場完成(2月)
- ・西麻植幼稚園園舎改築(3月)
- ・「少年の森」に野外活動センター完成(3月)
- ・鴨島中央工業団地造成工事着工(4月)、誘致企業(大真空)決定
- ・町道東森藤内原線開通(10月)



完成した森山小学校屋内運動場(昭和58年2月)



改築された西麻植幼稚園園舎(昭和58年3月)



建設工事中の誘致企業(鴨島中央工業団地)



十二騎橋(東森藤内原線)が完成し、三世代渡り初め(昭和58年10月)

chronological table

1984年 (昭和59年)

- ・西麻植小学校校舎改築(3月)
- ・麻植地区開拓パイロット事業完成(3月)
- ・鴨島町清掃センター(36トン/8時間, 18×2基)完成(3月)
- ・工業団地に徳島昭和精機などの企業誘致決定(4月)
- ・大型量販店「マルナカ」出店(11月)



現在の鴨島中央工業団地



西麻植小学校校舎



鴨島町清掃センターが完成し、1日36トンのゴミ処理が可能となる

1985年（昭和60年）

- ・勤労者体育センター完成(2月)
- ・「江川の湧水」、国の名水百選に選定される。(3月)
- ・向麻山公園遊具広場完成(3月)
- ・牛島公民館完成(3月)
- ・上浦小学校校舎改築(3月)
- ・内原老人憩の家完成(3月)
- ・国勢調査、鴨島町の人口 26,800人(10月)



勤労者体育センター落成記念バレーボール大会



現在の勤労者体育センター



上浦小学校校舎改築(昭和60年3月)



向麻山公園遊具広場。週末ともなれば多くの子供で賑わう



地域活動の拠点となっている牛島公民館



内原老人憩の家完成(昭和60年3月)

chronological table

1986年 (昭和61年)

- ・町の花「さくく」、町の木「くす」を制定(3月)
- ・国道318号、鶺の田尾トンネル開通(3月)
- ・中央保育所改築(3月)
- ・鴨島第一中学校南校舎完成(3月)
- ・筒井製糸(株)、製糸部門閉鎖(5月)
- ・住民参加の「レッツ・クリーン・デー」始まる。
- ・鴨島町文化協会設立(11月)



国道318号、鶺の田尾トンネルの開通式(昭和61年3月)



中央保育所改築(昭和61年3月)



鴨島第一中学校南校舎完成(昭和61年3月)



文化協会設立記念公演



住民参加の「レッツ・クリーン・デー」が始まる

1987年 (昭和62年)

- ・飯尾敷地小学校校舎改築(3月)
- ・敷地公会堂完成(3月)
- ・上浦に雇用促進住宅誘致内定(3月)
- ・町議会議員定数22人に変更(4月)
- ・第1回総合美術展開催(6月)
- ・鴨島郵便局新築、本郷から現在地へ移転(7月)



敷地公会堂完成



飯尾敷地小学校校舎改築



文化協会主催で開かれた「第1回総合美術展」(昭和62年6月)

chronological table

1988年 (昭和63年)

- ・西麻植小学校屋内運動場完成(2月)
- ・牛島幼稚園園舎改築(3月)
- ・ゴミ分別収集開始(11月)



現在の西麻植小学校屋内運動場



目にあざやかな傘踊り(昭和63年10月)



現在の牛島幼稚園園舎



秋祭りのかわいい子供みこし(昭和63年10月)



コミュニティ活動

緑豊かな郊外都市として発展を続ける鴨鳥では、心豊かな生活の実現をめざして住民主体のコミュニティ活動が世代を問わず活発に行われています。

なかでも環境に対する取り組みに力を入れており、リサイクル体制の充実や町内全域で一斉清掃を行う「レッツ・クリーン・デー」の実施、さらには名水江川に親しむイベント「江川フェスタ」にも清掃活動を盛り込むなど、あらゆる機会での美化を推進。地元意識の高まりにも大いに寄与しています。

祝平成14年 鴨島町成人式



① 防災の誓いも新たに、さわやかな緊張がみなぎる消防出初め式。

② 地下1500mからわき出る自慢の温泉「鴨の湯」。
露天風呂もあり、営業から6年で来場者50万人を迎えました。

③ 子どもたちも参加する「レッツ・クリーン・デー」。

④ 年の初めにふさわしい成人式の華やいた雰囲気。

⑤ 子どもたちも登下校中に、ごみ拾い。



1



2



3

イベント

吉野川と江川という二つの清流、緑豊かな山なみ、そして歴史遺産に恵まれた鴨島ならではの環境や個性を生かしたイベントを年間を通じて開催しています。

近年では健康・自然志向の影響からか、住民のレクリエーションやスポーツ振興を目的として始まったものにも、県内外から多数の参加者が集うようになりました。

遊びに、見物に、小さな子どもからお年寄りまで一緒に楽しめるイベントが多く、季節ごとに待ち遠しい家族の行事としても広く住民に愛されています。



① 鴨島公園一帯で行われる夏の人気イベント「江川フェスタ」。「あめごのつかみどり」など水と親しみプログラムがいっぱい。

②③ 今から約1200年前に弘法大師(空海)が四国八十八カ所を巡った時の道がただひとつ残っている藤井寺～焼山寺間を歩く。険しい山道や道中に残る小さな祠に、往時の風情が偲べれます。

④ 吉野川堤防を走るハーフマラソン大会。のどかな川景色ががんばるランナーたちをさわやかにサポートします。

⑤ 鴨島の名にちなんだ、美人ならぬユニークな「美鴨」コンテスト。

⑥ 平成14年、32年ぶりに復活したSL「四国三郎号」が鴨島駅に停車。

⑦ 休耕田を利用した昔懐かしい「どろんご遊び」に熱中する子どもたち。

鴨島駅前、今昔。





明治32年2月。徳島に初めて鉄道が開通したその日に鴨島駅の歴史も始まりました。当時、徳島-鴨島間の所要時間は約43分。現在のJR(約30分)と比べても遜色ない速度で人々を運び、鴨島、特に駅前周辺に大変な繁栄をもたらせたのです。製糸業全盛期には工場勤めの若い女性たちが商店街のショッピングに心躍らせ、また菊人形の臨時列車が到着するたびに観光客が駅前にあふれた時代もありました。やがて交通の中心は車へと移り変わりをみせましたが、現在も鴨島駅は「わが町の中心」として特別な存在感を保ち続けています。



鴨島町のあゆみ

IV

平成元年～平成16年

1989年

2004年

環境に対する意識が高まってきたこの時期。
いち早く清掃やゴミ処理に関する取り組みを行うと共に、
「アドベンチャー・イン・吉野川」など
自然とふれあうイベントを開始。より広い視点に立った
コミュニティ活動が展開されるようになりました。
そして、平成16年には50年の歴史に幕を閉じ、
鴨島町は吉野川市へ。新しい市で
私たちはまた次の歴史を刻み続けます。

chronological table

1989年 (平成元年)

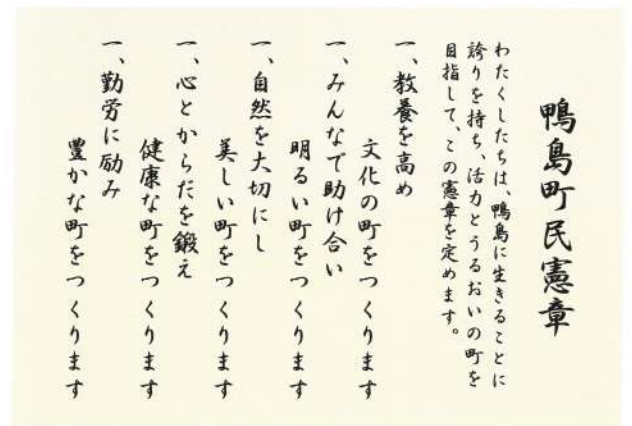
- ・飯尾敷地小学校屋内運動場完成(3月)
- ・町民憲章制定(3月)
- ・鴨島町文化研修センター完成(3月)
- ・鴨島町合併35周年記念式典(3月)



飯尾敷地小学校屋内運動場完成(平成元年3月)



鴨島町文化研修センター落成(平成元年3月)



制定された鴨島町民憲章



鴨島町合併35周年記念式典(平成元年3月)



子供神興もくりだした「五九郎まつり」(平成元年)



町民体育館で開かれたボクシング国体予選

1990年 (平成2年)

- ・鴨島鳳翔太鼓創設(2月)
- ・牛島小学校校舎改築(3月)
- ・喜来ポンプ場(雨水)完成(3月)
- ・第1回アドベンチャーイン吉野川開催(8月)



新しい牛島小学校校舎での楽しい給食



川と大いにふれあう 第1回アドベンチャーイン吉野川

1991年 (平成3年)

- ・鴨島東中学校視聴覚室(3階)増築(1月)
- ・知恵島小学校大規模改修(3月)
- ・鴨島町民体育館、東四国国体に備え大規模改修(3月)
- ・鴨島商工会議所、現在地(鴨島163-1,本郷)へ移転
- ・徳島中央テレビ(CATV)設立、平成5年10月から放送開始
- ・たなばたコンサートで鴨島鳳翔太鼓初舞台(7月)



国体に備え大規模改修を終えた鴨島町民体育館(平成3年3月)



鴨島鳳翔太鼓の初舞台(平成3年7月)



東四国国体に向けて、開設されたボクシング教室で練習(平成3年4月)

chronological table

1992年 (平成4年)

- ・鴨島第一中学校屋内運動場完成(3月)
- ・新開地中央通線一部供用開始(4月)
- ・町役場の電算化「住民基本台帳システム」スタート(7月)
- ・JR鴨島駅舎改装完了、オープンセレモニー(7月)
- ・鴨島町国際交流協会設立(8月)
- ・鴨島町民体育館周辺整備完成(10月)
- ・鴨島町中央浄化センター完成、公共下水道一部供用開始(10月)
- ・第62回全日本アマチュアボクシング選手権大会開催(11月)
- ・鴨島第一中学校合唱部、全国大会金賞受賞



東四国国体に向けて花づくり(平成4年5月)



鴨島第一中学校の合唱部が全国大会で金賞を受賞



鴨島中央浄化センターの最終沈殿池



鴨島町中央浄化センター完成(平成4年10月)

1993年 (平成5年)

- ・森藤ふれあいランド完成(3月)
- ・鴨島第一中学校技術室棟完成(3月)
- ・蚕業試験場と繭検定所が統合し、徳島県蚕業技術センターと改称(4月)
- ・江川・鴨島公園の整備完了(10月)
- ・第48回国民体育大会(東四国大会)鴨島町でボクシング競技を開催(11月)



町民の憩いの場となっている江川・鴨島公園



鴨島町新庁舎建設工事起工(平成5年3月8日)



国体の大会旗と炬火が町内を通過



第48回国民体育大会、ボクシング競技会開会式(平成5年11月)



会場では熱戦が繰り広げられた

chronological table

1994年 (平成6年)

- ・高速自動車道(藍住-脇町)が開通(3月)
- ・森山小学校校舎増築(3月)
- ・鴨島町清掃センターで資源リサイクルセンター稼働(4月)
- ・鴨島町役場新庁舎完成、現在地へ移転業務開始(8月)
- ・大型量販店「アクアシティー」出店(11月)



新庁舎完成落成式(平成6年8月)



新庁舎で初議会(平成6年9月)



完成した町役場新庁舎

1995年（平成7年）

- ・阪神・淡路大震災（1月17日）、鴨島町内からもボランティア活動参加、町民からの援助物資を送る。
- ・住民票・印鑑登録証明書の自動交付機四国で初めて稼働（2月）
- ・鴨島東中学校プール完成（3月）
- ・第1回「最後まで残った空海の道」ウォーク実施（5月）
- ・樋山地の文化財総合調査（10月）
- ・国勢調査、鴨島町の人口 26,213人（10月）



阪神・淡路大震災に鴨島町からも救援物資を送る（平成7年1月）



第1回「最後まで残った空海の道」ウォーク実施



住民票、印鑑登録証明書の自動交付始まる（平成7年2月）



鴨島東中学校プール完成（平成7年3月）

chronological table

1996年（平成8年）

- ・森山公民館改築(3月)
- ・旧役場庁舎解体(3月)
- ・鴨島町温泉第1号源泉、掘削完了(5月)
- ・鴨島町青少年のウインドアンサンブル第1回公演(8月)
- ・第20回鴨島大菊人形、町役場イベント広場で開催(10月)



解体中の旧役場庁舎



森山公民館改築（平成8年3月）



毎年開かれているウインドアンサンブル公演



鴨島大菊人形 町役場イベント広場での開催が始まる

1997年 (平成9年)

- ・鴨島町と近隣7ヵ町村で結成した徳島中央広域連合発足(2月)
- ・西麻植公民館新築移転(3月)
- ・徳島県立鴨島職業訓練校(テクノスクール)廃校(3月)
- ・町道「喜来上下島線」(都市計画道路)全線開通(4月)
- ・鴨島東中学校新体操部、中学校総合体育大会全国大会で県下初の団体4位入賞(8月)



徳島県内では初めて設立された徳島中央広域連合の初議会(平成9年)



全国大会4位入賞の快挙(平成9年8月)



西麻植公民館新築移転(平成9年3月)



町道「喜来上下島線」が全線開通。町の中心部から県道徳島-鴨島線へのアクセスも便利になった



公衆温泉浴場起工式

chronological table

1998年 (平成10年)

- ・鴨島温泉「鴨の湯」営業開始(1月)
- ・鴨島公共職業安定所(ハローワーク)新築移転(旧役場跡へ)(2月)
- ・上浦幼稚園園舎改築(3月)
- ・鴨島南児童館完成(3月)
- ・徳島県蚕業技術センター改組により、徳島県立農業試験場鴨島分場となる(4月)
- ・中央火葬場敷地に鴨島町斎場(火葬場)完成(4月)
- ・鴨島町の人口が26,000人を割る(25,980人)(6月)
- ・野口順氏13代目(14代目)町長に就任(11月)
- ・上浦小学校運動場完成(12月)



営業を開始した鴨島温泉「鴨の湯」(平成10年1月)



町内で二つ目となる鴨島南児童館完成(平成10年3月)



上浦幼稚園落成記念式典(平成10年3月)



完成した運動場で盛大に行われた運動会(写真は平成12年)



近代的な設備を備える鴨島町斎場完成(平成10年4月)



魚のつかみどりでぎわう江川フェスタ

1999年（平成11年）

- ・西条大橋起工(1月)
- ・徳島-鴨島間の鉄道開通100周年記念行事がJR徳島駅で開催される。(2月)
- ・上浦小学校プール完成(3月)
- ・地域振興券交付(3月)
- ・鴨島、川島、山川、美郷の各農業協同組合が合併し、麻植郡農業協同組合(JA麻植郡)が発足(4月)
- ・徳島中央広域連合事務局を鴨島町役場内に設置(4月)
- ・町議会議員定数20人に変更(4月)
- ・行財政審議会答申(12月)
- ・JA麻植郡農産物直売所「ひまわり農産市」オープン(12月)



地域振興券交付(平成11年3月)



「ひまわり農産市」落成式(平成11年12月)



買い物客で賑わう「ひまわり農産市」平成16年7月撮影



行財政審議会が行財政システム改革について答申(平成11年12月)



清掃センターのダイオキシン対策が終了し、炉に火入れ(平成11年12月20日)

chronological table

2000年（平成12年）

- ・徳島自動車道全線開通(3月)
- ・鴨島小学校屋内運動場完成(3月)
- ・介護保険制度スタート(4月)
- ・初めての子供議会(7月)
- ・第68回四国菊花品評会、町役場イベント広場で開催(10月)
- ・第1回吉野川ハーフマラソン大会開催(11月)
- ・大型量販店「セレブ鴨島」オープン(12月)
- ・鴨島第一中学校駅伝部、第8回全国中学校駅伝大会出場(12月)



鴨島小学校屋内運動場完成(平成12年3月)



初めての子供議会開催(平成12年7月)



江川湧水源周辺を清掃する江川エコフレンド

2001年（平成13年）

- ・第47回徳島駅伝大会で麻植郡優勝(1月)
- ・鴨島町教育研究所廃止(3月)
- ・鴨島町小学校新校舎完成(6月)
- ・都市計画道路「鴨島上下島線」開通(11月)
- ・「市町村合併をともに考える全国リレーシンポジウム」が中央公民館で開催される。(11月)



「鴨の湯」入場者30万人突破(平成13年11月7日)



新しくなった鴨島小学校校舎(平成13年6月)



町道「鴨島上下島線」開通(平成13年11月)



「市町村合併をともに考える全国リレーシンポジウム」開催

chronological table

2002年 (平成14年)

- ・阿北消防組合を解散、徳島中央広域連合に統合(4月)
- ・鴨島町、川島町、山川町、美郷村で「麻植郡合併協議会」を設立、事務所を川島町福祉センター「上桜」内に設置(4月)
- ・32年ぶりにSL「阿波四国三郎号」(C56型式)が徳島駅-阿波川島駅間を走る。(5月)
- ・ねんりんピック徳島2003リハーサル大会開催(11月)
(第3回吉野川ハーフマラソン大会)



平成14年4月1日「麻植郡合併協議会」を設立



ねんりんピック徳島2003リハーサル大会開催(平成14年11月)



江川湧水源横にユニバーサルデザインのトイレを完備した「いやしの舎」完成



32年ぶりに復活したSL(阿波四国三郎号)

2003年（平成15年）

- ・戸籍事務のコンピュータ処理開始(2月)
- ・都市計画道路「新開地中央通線」が開通(3月)
- ・一般廃棄物最終処分場が完成(3月)
- ・子育て支援事業「鴨島町はぐみクラブ」スタート(6月)
- ・ねんりんピック徳島2003鴨島町マラソン交流大会開催(10月)
(第4回吉野川ハーフマラソン大会)
- ・麻植郡4町村が町村合併調印(10月)
- ・町議会が麻植郡4町村の合併関連議案を可決(12月)
- ・麻植郡4町村長が徳島県知事に「廃置分合」を申請(12月)



新開地中央通線開通[3月]



大勢の参加者で盛り上がったねんりんピック徳島2003マラソン交流大会



一般廃棄物最終処分場完成(平成15年3月)



はぐみクラブスタート(平成15年6月)



4町村長により合併協定調印(平成15年10月27日)

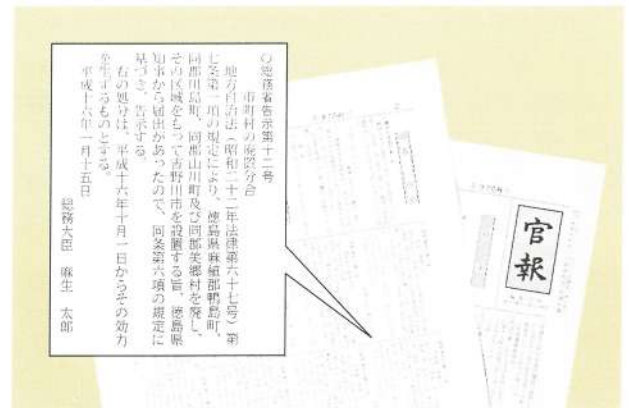


町議会が4町村の合併関連議案を可決(平成15年12月2日)

chronological table

2004年（平成16年）

- ・総務大臣が麻植郡の廃置分合を官報で告示(1月)
- ・西条大橋開通、供用開始(3月)
- ・鴨島東中学校屋内運動場完成(3月)
- ・麻植郡4町村が合併し新市「吉野川市」が誕生(10月)



総務大臣が官報で麻植郡の町村合併を告示(平成16年1月15日)



鴨島東中学校屋内運動場完成(平成16年3月)



屋内運動場に設けられた武道場



西条大橋開通、供用始まる(平成16年3月30日)

笑顔の未来。

安心して子育てができる町、そして子どもたちが個性や能力をいきいきと伸ばせる町をめざして、鴨島町ではさまざまな取り組みを行ってきました。幼少期から豊かな人間性をはぐくむための機会づくりにも心を配り、地域、環境、福祉などの社会生活に着目した町独自の教育プログラムを展開。一方で、進む国際化や情報化に対応できるようなカリキュラムにも力を入れてきました。子どもたちの誰にも、輝かしい未来があるように。無邪気な笑顔を見守る大人たちにも、自然と優しい笑顔が浮かびます。





鴨島町から吉野川市へ。

50年の歴史を通じて、鴨島町が何より大切にしてきたのは、ここに住む人々、中でも子どもたちとお年寄りの笑顔を絶やさぬことでした。

お年寄りの方々には、あたたかな故郷をつくり、支えてきてくださったことへの感謝と尊敬を。

子どもたちには、素晴らしい明日を創りあげてほしいという期待と愛情を。

その想いがさまざまな試みとなり、かけがえのない町を創りあげてきたのです。

平成16年、鴨島町は吉野川市へと生まれ変わります。

新しく動き始めた未来へ。鴨島町からの贈り物は、すこやかに成長を続けるたくさんの子どもたちです。

鴨島町長 野口 順





企画・発行：鴨島町

発行日：平成16年8月
